

取扱説明書

ハウスシート巻上機

MH700AM



正しく安全に効率の良い作業をしていただくために、ぜひ心掛けて
いただきたいことを述べていますので、ご使用前に必ずお読みください。
誤った使い方をすると、事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後は必ず製品に近接して保存してください。

ハウスシート巻上機を お買い上げいただきまして、ありがとうございます

はじめに

- この取扱説明書はハウスシート巻上機の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しくお取扱いいただき、最良の状態でご使用ください。
- お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに弊社または弊社の特約店・販売店にご注文ください。
- なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。その際には、本書の内容および写真・イラストなどの一部が、本製品と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、特約店・販売店にご相談ください。
-  印付の下記マークは、安全上、特に重要な項目ですので、必ずお守りください。

 **危険** この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** この警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

- この取扱説明書には安全に作業していただくために、安全上のポイント「安全に作業をするために」を記載しております。使用前に必ずお読みください。

もくじ

1. 安全に作業をするために	3～5
2. サービスと保証について	6
3. 仕様	7
4. 本製品の使用目的について	7
5. 各部のなまえ	8
6. 安全銘板の貼り付け位置	9
7. 各部のはたらき	10
8. 運転前の準備	11
組立	11～12
車両走行時と作業時	13
燃料	14
9. エンジンの始動と停止	15～17
エンジンの始動	15～16
エンジンの停止	16～17
10. 作業はじめ	18
11. 作業のしかた	19
12. 作業のしかた（その他）	20
①その他の注意	20
②トラック等での移動	20
③ビニールシートが詰った場合	21
④導入ロープの作り方	22
12. 作業後の手入れ	23
・各部の掃除のしかた ・長時間使用しない場合の手入れ	
13. 日常の点検と調整	23～25
①ウォームギヤオイルの点検・補充	23
②Vベルトの点検	23
③巻き上げ部駆動輪の空気圧	23
④日常のエンジンの点検と調整	24～25
14. 故障と対策	26

安全に作業をするために

ここに記載されている注意項目を守らないと、死亡を含む傷害や事故、機械の破損が生じるおそれがあります。

1. 一般的な注意事項

⚠ 注意 こんなときは、運転しない

- 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により、作業に集中できない。
- 酒を飲んだとき。
- 妊娠しているとき。
- 18才未満の人。

思わぬ事故の原因になります。



⚠ 注意 作業に適した服装を

はち巻・首巻き・腰タオルは禁止です。作業に適した帽子、滑り止めの付いた靴を着用し、作業に適した服装をしてください。

「守らないと」

機械に巻き込まれたり、滑って転倒するおそれがあります。



⚠ 警告 排気ガスには十分に注意

エンジンは、風通しのよい屋外で始動してください。
やむを得ず屋内で使用する場合、ハウス内で始動
または作業するときは十分に換気をしてください。

「守らないと」

排気ガスによる一酸化炭素中毒を起こし、
死亡事故にいたるおそれがあります。



⚠ 警告 機械を他人に貸すときは

取扱方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず
読むように指導してください。

「守らないと」

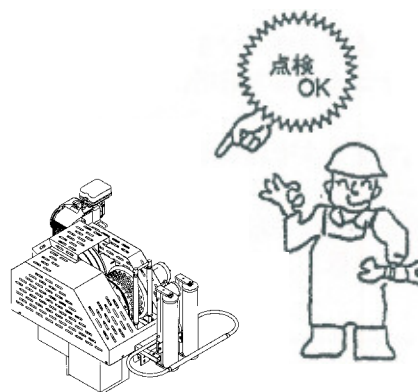
死亡事故や重大な傷害、機械の破損をまねくおそれがあります。



安全に作業をするために

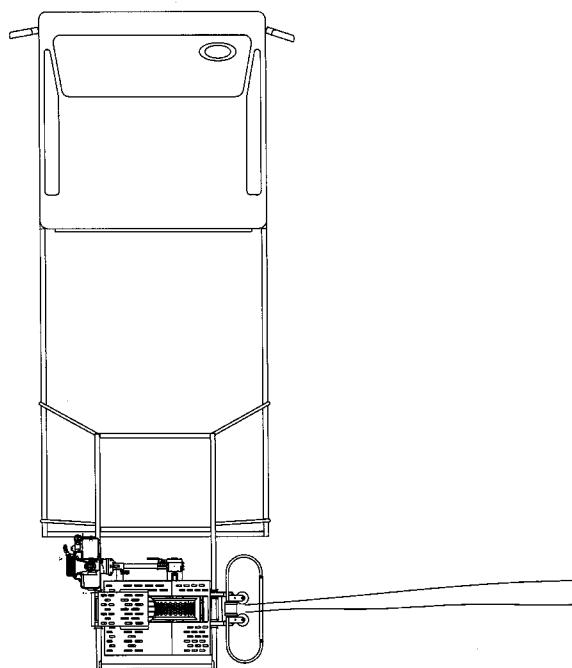
⚠ 警告 始業点検を必ず行ってください。

- 安全作業の為、カバーの装着各部の取り付けネジは確実か、確認してください。
- エンジン、減速機、駆動ホイールなどの駆動部に異常音及び異常振動等が無いか確認してください。

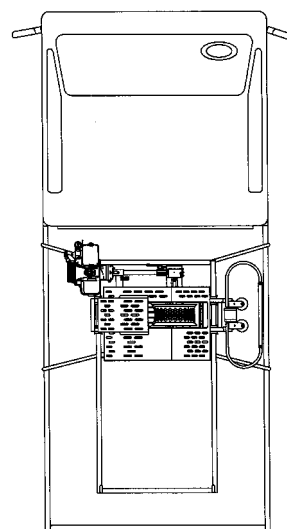


⚠ 警告 マルチ巻上機をトラックに載せて一般公道を走行する場合は、トラックの荷台からはみ出さないように載せてください。

作業は荷台後部へはみ出した状態で行います。そのまま一般公道を走行すると道路交通法違反となります。



作業時



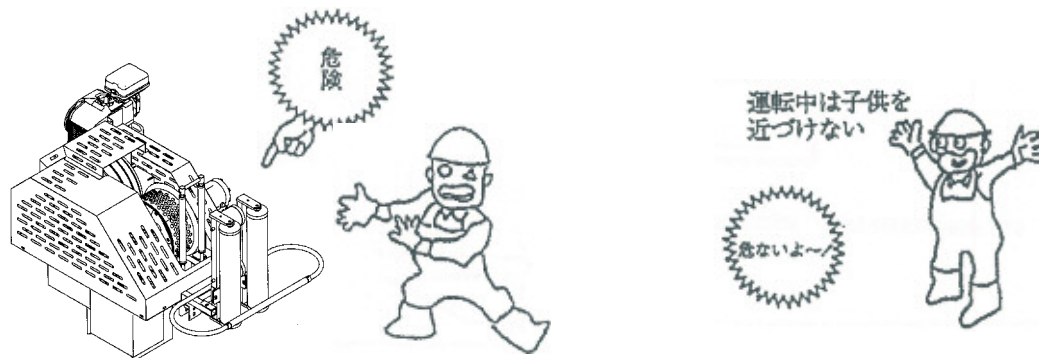
一般公道走行時
(荷台からはみ出さないこと)

⚠ 警告 ハウスシート巻上げ作業をするときは、作業車両を水平で安定した場所で行ってください。

作業車両が傾いていると転倒するおそれがあります。

安全に作業をするために

- ⚠ 警告** 運転中は巻き上げ部、折りたたみ部には手を絶対触れないでください。
巻き上げ部、折りたたみ部は最も危険で思わぬ事故に繋がりますので手を触れたり、カバーをはずしたりしないでください。



ハウスシート巻上げ作業を行う場合、必ずビニールシート導入ロープを使用し巻き上げ部へ挿入してください。絶対にビニールシートを直接巻き上げ部に挿入しないでください。またビニールシート導入ロープを巻き上げ部へ挿入するときは、エンジンを停止状態にし駆動ホイール、駆動輪が停止しているのを確認後挿入してください。

また、巻き上げ作業中に折りたたみ部内でビニールシートの詰まりが発生したらエンジンを停止させ詰まりを解消してください。エンジン運転中でスロットルを閉じた状態にしている、突然スロットルが開いたような状態になることがあり、機械に巻き込まれるおそれがあります。

- ⚠ 警告** 点検清掃のときは必ずエンジンを停止させ、回転部が完全に止まるのを確認の上で作業を行ってください。
機械に巻き込まれ傷害を負うおそれがあります。

サービスと保証について

保証書について

「保証書」はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに25ページの「故障と対策」に従って点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にしてお買い上げいただいた特約店、販売店までご連絡ください。

「連絡していただきたい内容」

- 型式名と機体番号
- ご使用状況は？
- どのくらい使用されましたか？
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

補修部品の供給年限について

この製品の補修部品の供給年限（期限）は、製造打ち切り後8年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。補修用部品の供給は、原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。



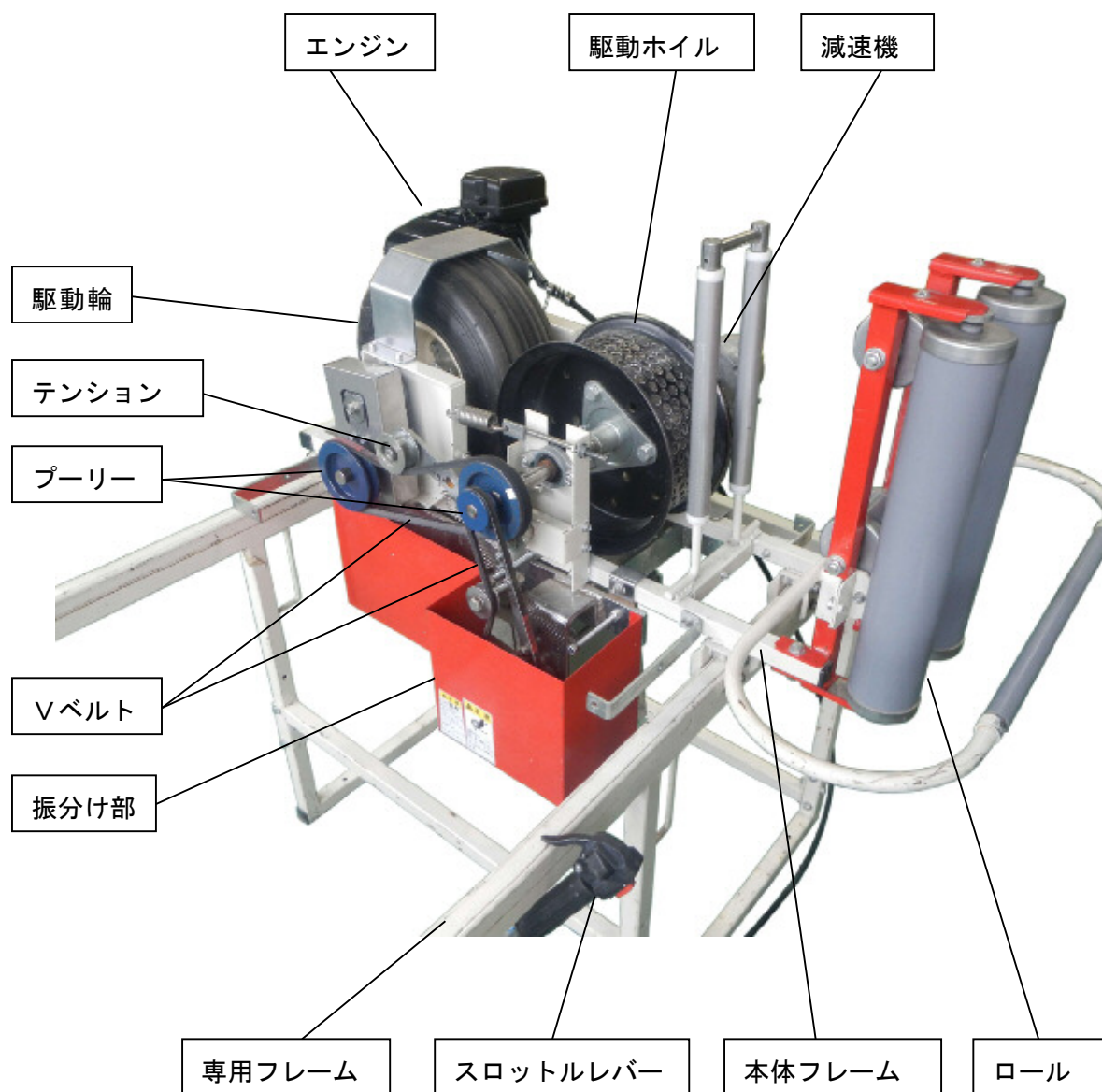
仕 様

型 式		MH700AM
名 称		ハウスシート巻上機
本 体 寸法 長 x 幅 x 高 (mm)		1276 x 835 x 848
フレーム寸法 長 x 幅 x 高 (mm)		1520 x 785 x 690
組立時 寸法 長 x 幅 x 高 (mm)		1520 x 1276 x 1169
本 体 重 量 (kg)		46
フレーム 重 量 (kg)		20
エ ン ジ ン	名 称	三菱TS70PFD
	総 排 気 量 (cm^3)	70.7
	最大出力 (KW・(PS))	3.0 (4.08)
	回 転 方 向	左回転
	使 用 燃 料	潤滑油混合ガソリン (混合比50 : 1)
	燃 料 タ ン ク 容 量 (ℓ)	1.9
	気 化 器	ダイヤフラム式
	点 火 方 式	CDI式
	点 火 プ ラ グ	(NGK) BPMR8Y
	始 動 方 法	三菱ミラクルスタート
	停 止 方 法	一次線短絡式 (押しボタン式)
	ク ラ ッ チ 方 式	遠心クラッチ
能 力		0.075 mm厚 X7.5m 幅 X100m を連続3分で巻き上げ
搭 載 車 両		2 t、軽トラック (標準専用フレーム有り)
付 属 品		13X19 mmボックスレンチ・8X10 mmスパナ

本製品の使用目的について

本製品は農業用ハウスのビニールシート剥ぎ取り、巻き上げ作業にご使用ください。
 使用目的以外の作業や改造などは決してしないでください。
 使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証対象外になりますのでご注意ください。
 (詳細は保証書をご覧ください。)

各部のなまえ

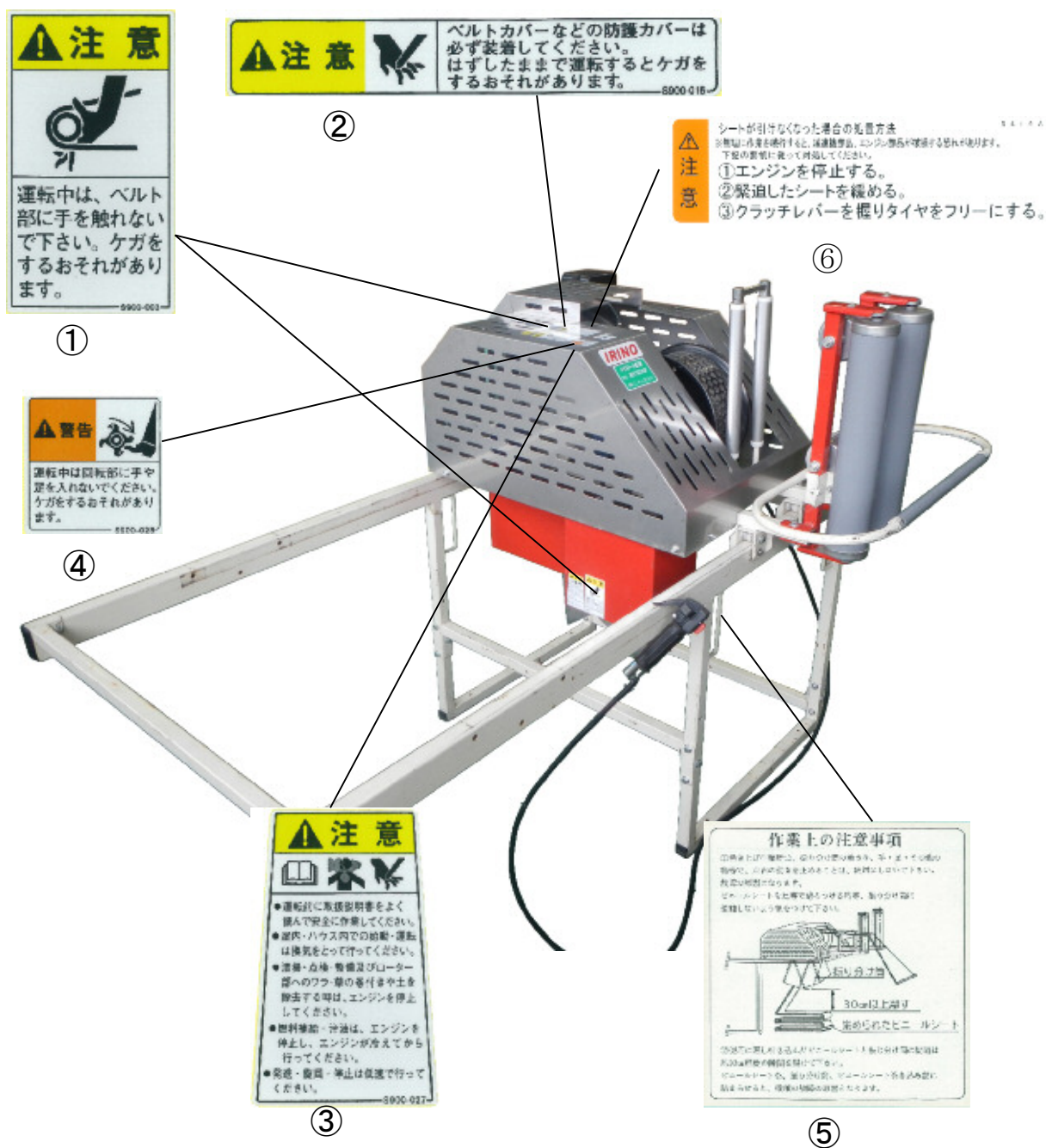


導入ロープ

本体カバー



安全銘板の貼り付け位置



No.	部品番号	区分
1	S 9 0 0 - 0 0 3	注意
2	S 9 0 0 - 0 1 6	注意
3	S 9 0 0 - 0 2 7	注意
4	S 9 0 0 - 0 2 8	警告
5	S 9 0 0 - 0 1 9	注意
6	S 4 1 9 A	注意

各部のはたらき

①②エンジン部、減速部

エンジンの回転数を減速し、ビニールシートの巻き上げに適したスピードにしています。

③本体フレーム部

エンジン部、減速部、巻き上げ部、折りたたみ部を搭載する為のフレームです。

④巻き上げ部

ビニールシートを駆動ホイールと駆動輪で巻き込み、下方へビニールシートを収容していきます。

⑤ロール部

ビニールシート巻き上げ時、巻き上げ部までの案内であるとともに、ビニールシートを束ねて巻き上げ時の切れを防止します。

⑥折りたたみ部

ハウスシート巻上機より巻き上げられたビニールシートを1m程度の幅に折りたたんでいき、ビニールシートを翌年再利用出来るよう保存したり、廃棄業者などに回収してもらえるような形状にすることができます。

⑦専用フレーム部

ハウスシート巻上機本体を、トラックの荷台に搭載し作業をする為の専用フレームです。

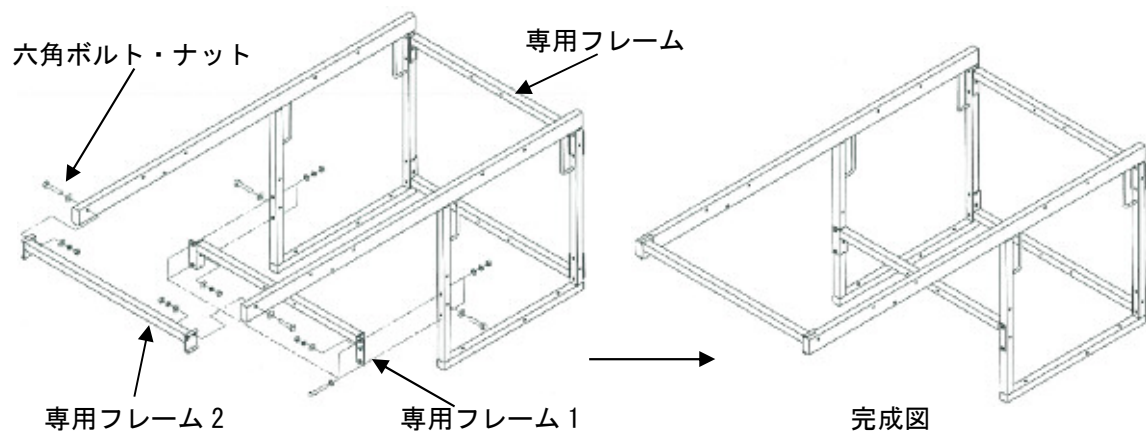
⑧導入ロープ

ビニールシートを本体の巻き上げ部まで案内する為の挿入用ロープです。

運転前の準備

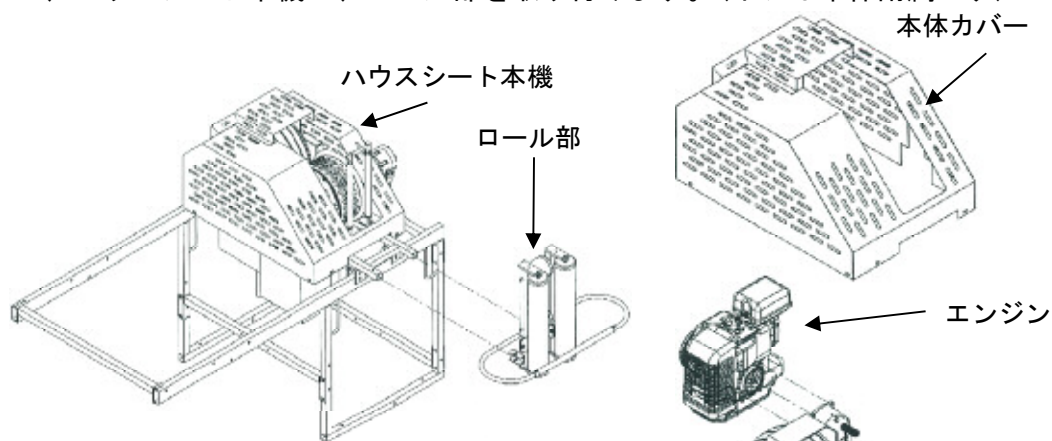
組立（2名以上で行ってください）

1、梱包をほどき、専用フレームを付属のボルト、ナットで組み立てます。（8ヶ所）



2、組み立てた専用フレームに、ハウスシート本機を付属のロックピンで固定します。

3、ハウスシート本機に、ロール部を取り付けます。（ネジは本体付属です）



4、本体カバーをはずします。

4本のボルトでエンジンを取り付けます。

（M6 X 16）

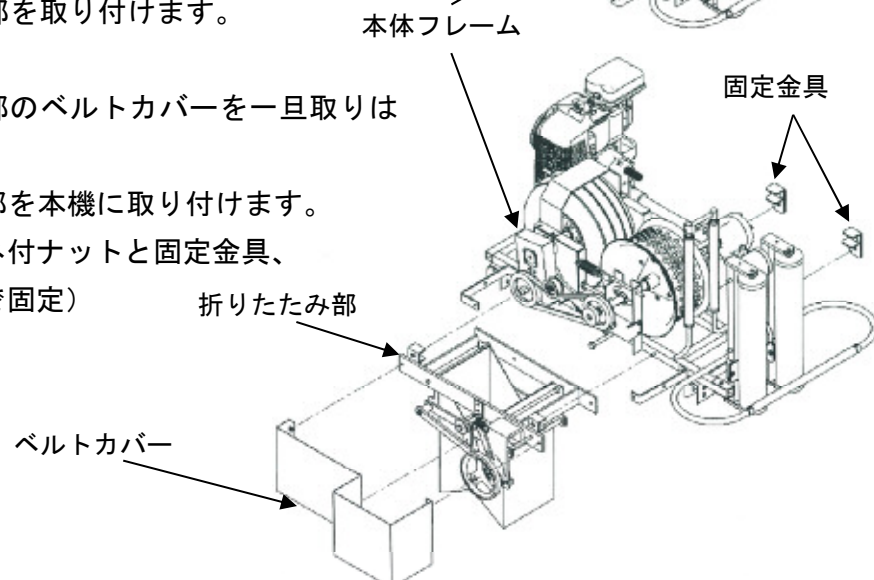
5、折りたたみ部を取り付けます。

折りたたみ部のベルトカバーを一旦取りはずします。

折りたたみ部を本機に取り付けます。

（M6 皿バネ付ナットと固定金具、

M8 ボルトで固定）



運転前の準備

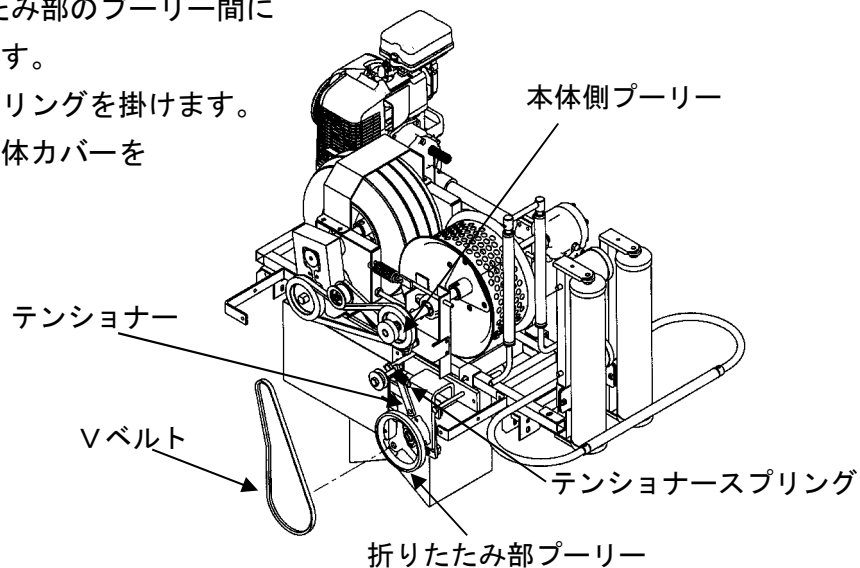
6、本機と折りたたみ部のプーリー間に

Vベルトを掛けます。

テンショナー springs を掛けます。

ベルトカバー、本体カバーを

取り付けます。

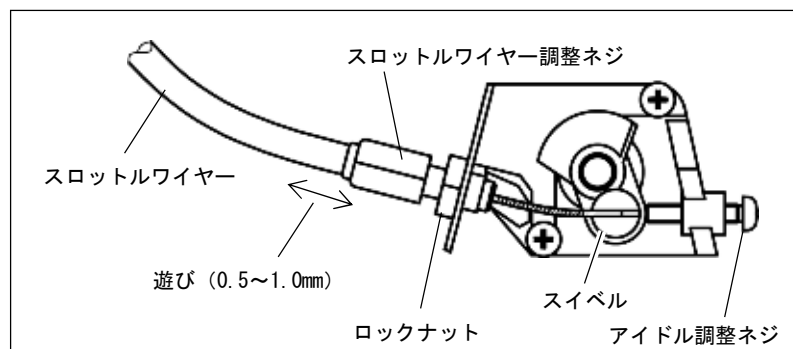
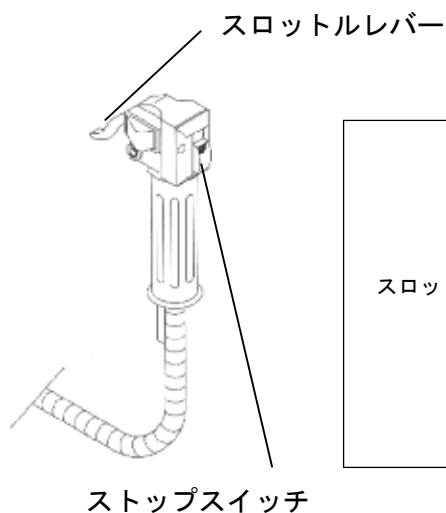
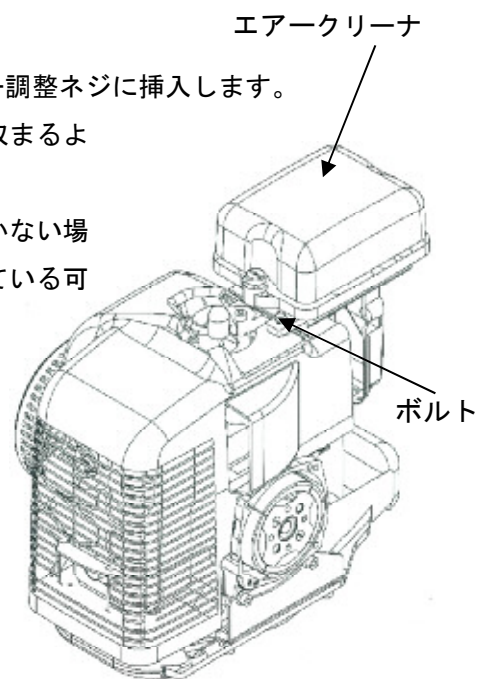


7、スロットルワイヤーを取り付けます。

1. スロットルレバーを『全閉』にしてください。
2. ボルトを緩めてエアークリーナをはずします。
3. スロットルワイヤー先端をスロットルワイヤー調整ネジに挿入します。
4. スロットルワイヤーの先端部をスイベル内に収まるようにはめ込みます。

※スロットルワイヤーの先端がスイベルに届かない場合、スロットルレバー側のワイヤーがはずれている可能性があります。

5. ストップスイッチのリード線端子をエンジン側の端子に接続して、クランプで固定します。
6. フレキシブルライナのワイヤステイにスロットルワイヤーをはめこみ、固定します。



運転前の準備



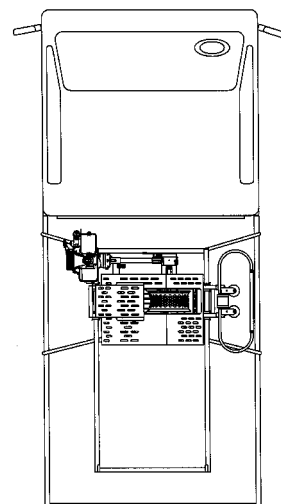
警告

ハウスシート巻上機を搭載しトラックで一般公道を走行する際は、専用フレームを下図に示すように荷台からはみ出さないように搭載し、付属のロープでしっかり固定してから走行してください。

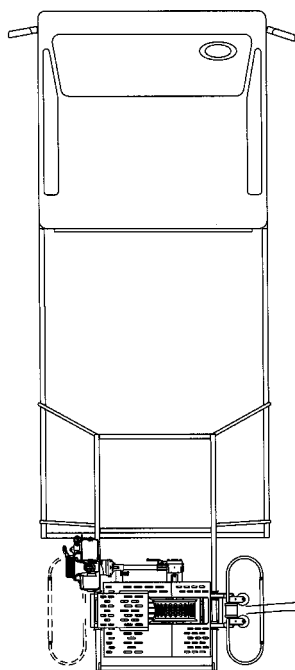
はみ出したまま走行していると道路交通法違反となります。

ハウスシート巻上機を搭載して車両走行時

一般公道走行時は、右図のように荷台より機械がはみ出さないこと →
※ハウスシート本機と専用フレームはロックピン（4本）で、必ず固定してください。



ハウスシート巻上げ作業時



専用フレームを後部あおりまで移動させ、付属のロープでしっかりと荷台に固定します。

ロックピンをはずし、ハウスシート本機を専用フレーム上でスライドさせて、巻取り位置まで移動し再度ロックピンで固定します。

この状態で巻取り作業が可能となります。

ビニールシート



この取説では本機の巻取り方向を運転席側に搭載していますが、本機を180°反転させて載せ換えることで助手席側からビニールシートを巻き上げることができます。

運転前の準備

◇ 燃料

⚠ 危険

- 火気を使用している付近で燃料の保管や給油、試運転をしないでください。
- 燃料の給油は必ずエンジンを停止し、冷えた状態で行ってください。
- 燃料の給油は屋内や換気の悪いところではしないでください。
- 給油中にタバコを吸ったり、火気を近づけたりしないでください。
火災などの重大な事故や、火傷などの重大な傷害を負うことになります。

⚠ 警告

- 製品に火気を近づけないでください。
- 試運転・作業時のみ燃料を給油してご使用ください。
保管時は必ず燃料を抜いてください。
- こぼれた燃料は必ずきれいに拭き取ってください。
火災などの重大な事故や、火傷などの重大な傷害を負う可能性があります。

⚠ 注意

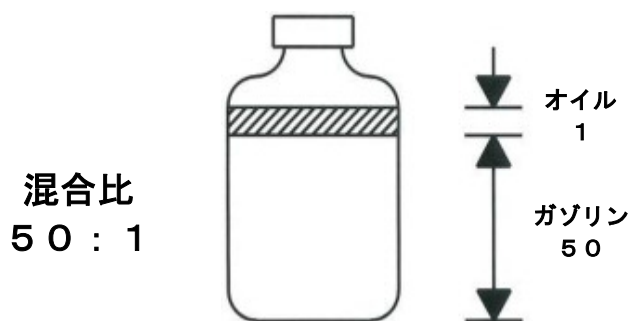
- 下記の内容を必ず守ってください。
 - ・ エンジンオイルは必ず2サイクルエンジン専用オイルを使用してください。
 - ・ 必ず指定の混合比で使用して下さい。
 - ・ ガソリンとオイルは別の容器で十分混ぜ合わせてから給油してください。
 - ・ 混合燃料は混ぜてから1カ月以内のものを使用してください。
焼き付きなど、エンジン故障の原因となります。

使用燃料はガソリンと2サイクル専用オイルの混合燃料です。

オイルはJASO F C級またはISO EGC級を使用して下さい。

混合する割合（混合比）は下記のとおりです。

混合比の例



ガソリン (L)	オイル (mℓ)
1	20
2	40
5	100
10	200
20	400

◇ エンジンの始動

- ⚠ 危険** ● エンジン始動時および運転時は絶対に動く部分に手や足を近づけないでください。

事故や重大な傷害を負うことになります。

- ⚠ 警告** ● 屋内など換気の悪いところでは始動・作業をしないでください。

一酸化炭素中毒を引き起こすおそれがあります。

- 水平で安定した場所で始動してください。
- エンジン始動前に以下のことを確認してください。

- ・各部のネジ・ボルトに緩みがないこと。
- ・機械の下に人がいないこと。
- ・燃料漏れがないこと。
- ・スロットルレバーなどが地面やその他の障害物に触れていないこと。
- ・燃物（ガソリン、揮発性薬品類など）が近くにないこと。
- ・ストップスイッチが運転側にあることを確認してください。

思わぬ事故や重大な傷害を負う可能性があります。

- 始動時にスロットルレバーに触らないでください。

始動直後に車輪が回転し始め、思わぬ事故や重大な傷害を負う可能性があります。

- エンジンを始動させたら以下のことを確認してください。

- ・スロットル全閉状態で車輪が回転していないか確認してください。
- ・ストップスイッチが機能するか確認をしてください。
- ・振動・音など異常がないか確認してください。

異常を感じた場合にはすぐにエンジンを停止させ、点検・修理してください。

- 運転中および停止直後にはシリンダやマフラーなどの高温部には触れないでください。

火傷、火災などの重大な事故や傷害を負う可能性があります。

- 運転中にプラグキャップや高圧コードなどの通電部には触れないでください。

感電により重大な傷害を負う可能性があります。



- ⚠ 注意** ● エンジン故障の原因になりますので、以下のことを守ってください。

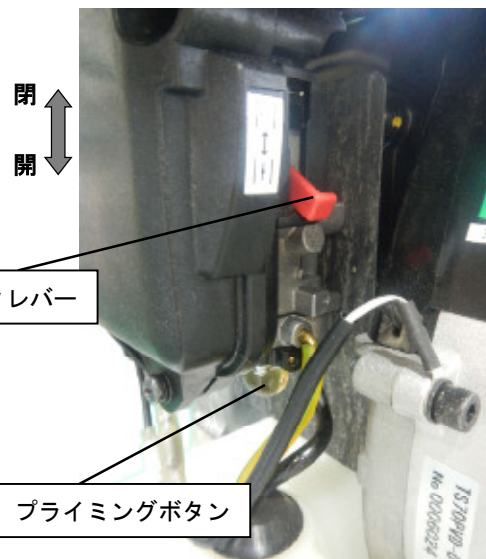
- ・エンジン始動時にリコイルスタータを全部引ききらないでください。
- ・リコイルスタータを引いた後急激に離さないでください。
- ・エンジン始動直後は急激に回転を上げないでください。
- ・試運転時および作業時に、不必要な無負荷運転・高速回転での使用は避けてください。

エンジンの始動と停止

別冊「エンジン取扱説明書」もよくお読みください

◇ エンジンの始動

1. プライミングボタンを指で上に当るまで繰り返し押しします。燃料が透明なパイプを通してタンクに戻り始めるまで繰り返してください。
2. チョークレバーを『閉』にします。
(エンジンが暖かい場合は『開』にします。)
3. スロットルレバーから手を離します。
4. ストップスイッチが「START」にある事を確認し、リコイルスタータグリッ プを握り勢よく引っ張り始動してください。



エンジンが始動したらリコイルスタータグリッ プをゆっくりと元の位置に戻します。

5. 爆発音がしても始動しない場合は、チョークレバーを『開』にして、再度リコイルスタータグリッ プを引いてください。
6. 始動後、エンジンの調子を見ながら徐々にチョークレバーを『開』にします。
7. 十分な暖機運転を行ったうえで、スロットル操作をしてください。

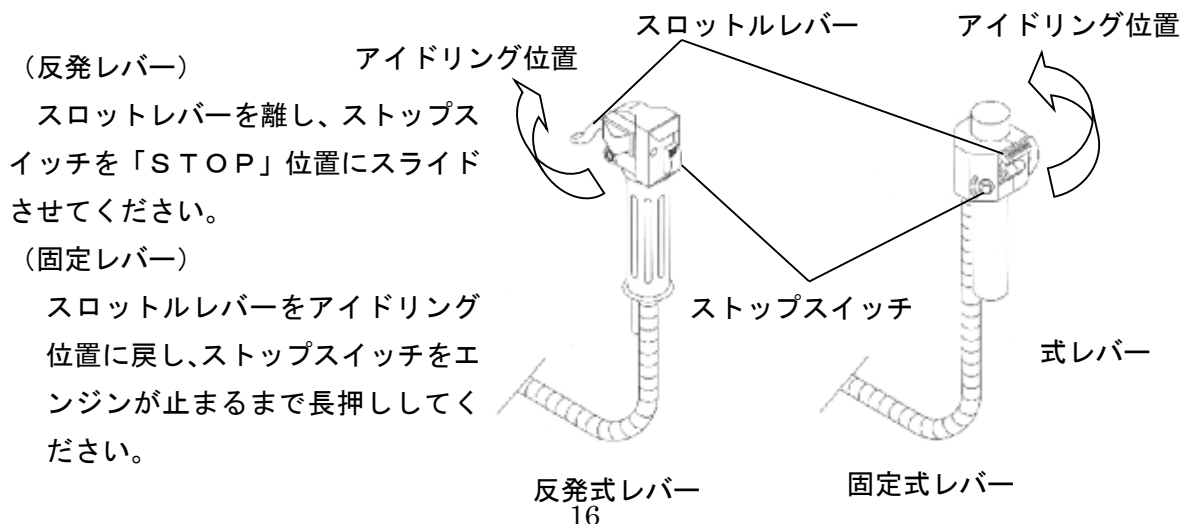
※始動方法は「エンジン取扱説明書」もご覧ください。

◇ エンジンの停止

- スロットルレバーを戻し、動作部が停止してからエンジンを停止してください。

⚠ 注意

ケガを負うおそれまたは機械の損傷の可能性があります。



◇ エンジン停止直後の始動（エンジンが暖まっている時）

- エンジン始動に失敗し、何回もチョーク操作を試みると燃料を吸いすぎ、始動困難となりますので、その場合はチョークを全開にして始動操作を行ってください。



注意

始動後スロットルレバーの開閉により、小刻みに素早く数回加速を行ってください。これは気化器内の空気を抜くためで、空気があると加速不良およびエンストなどが発生する可能性があります。

- ① プライミングボタンを指で上に当るまで繰り返し押しします。燃料が透明なパイプを通過してタンクに戻り始めるまで繰り返してください。
- ② リコイルスタータグリップを勢い良く引きます。

◎ 始動のポイント

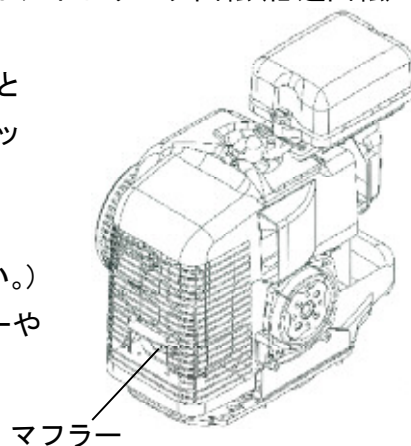
- ・ リコイルスタータグリップは勢い良く引いてください。始動時のエンジン回転が速くなると点火火花が飛び、かかりやすくなります。
- ・ リコイルスタータグリップは、ロープを全部引ききらず、またグリップから手を離さないでください。グリップの回りの部品を破損することがあります。
- ・ 運転中は、リコイルスタータグリップを引かないでください。故障のおそれがあります。

作業はじめ

別冊「エンジン取扱説明書」もよくお読みください

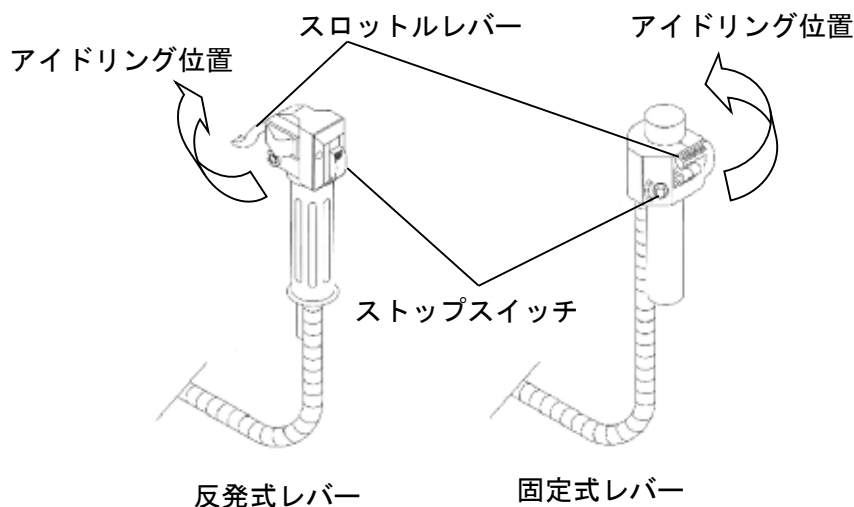
○作業開始時の注意

- ・ エンジン始動後 2～3 分間暖機運転をしてください。
- ・ 低速運転後、スロットルレバーを引いてエンジンの回転を上げていくと、回転数が 3600rpm 程度から車輪が回転をはじめます。
- ・ スロットルレバーの位置は、作業の状態に合わせて調節します。
作業中スロットルレバーを離すとアイドリング回転になります。引き続き作業をする場合はスロットルレバーを握り、エンジン回転数を作業の状態に合わせて調節します。
- ・ スロットルレバーを戻せばクラッチが切れ、エンジンはアイドリング回転(低速回転)になります。
- ・ 作業中巻取り部、振分け部など動作部に異常が生じたときは、すぐにスロットルレバーを戻し、ストップスイッチを押し、エンジン停止を確認します。
異常停止した状態を復帰させます。
(異常復帰できない場合は販売店などにご相談ください。)
- ・ 火傷防止のため、運転中および停止直後にはシリンダーやマフラーなどの高温部には触れないでください。



○作業終了時の注意

- ・ スロットルレバーから手を離すまたはをアイドリング位置に戻します。
- ・ ストップスイッチを S T O P 位置にするまたはエンジンが完全に停止するまでスイッチ押します。
- ・ 高速回転で運転中に急に停止させることは、エンジンに無理がかかり故障の原因となります。緊急時以外はアイドリング位置に戻してから停止します。
- ・ 燃料は最後まで使い切らないうちに補給してください。次の始動が容易になります。
- ・ 引き続き後の作業がないときは、燃料タンクの燃料を抜き取り、再始動して気化器内の燃料を使い切ります。



作業のしかた

本機が正しく作業車両に固定されている事を確認してください。

⚠ 注意

転倒し事故や機械が破損する恐れがあります。

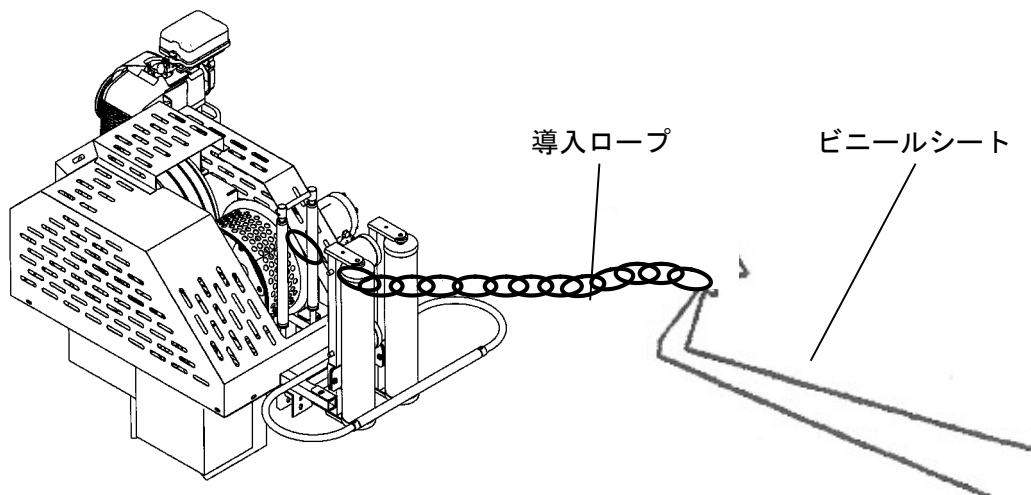
1. ハウスより屋根用ビニールシートをはずし、地面に降ろしてください。
2. 本機のロール部をハウスに向けた状態で作業車両をハウスに寄せてください。
3. 本機を巻取り作業姿勢にセットします。(P 13 参照)
4. 導入ロープにビニールシートを縛ります。
5. 導入ロープをロール部に通し、駆動ホイールと駆動輪の間に差し込みます。

⚠ 警告

エンジンが停止した状態で差し込んでください。

巻き上げ部に巻き込まれてけがをする恐れがあります。

6. エンジンを始動してください。
7. 導入ロープが本体折りたたみ部の中から出たのを確認するまではエンジンの回転をあまり上げず、ゆっくり回るように調整してください。このとき導入ロープが折りたたみ部の中に入らなかったり縁に引っ掛かった場合は、エンジンを停止し導入ロープを折りたたみ部の中に入れてください。
8. 導入ロープ全体が折りたたみ部の中を通過して出てきたら、導入ロープをビニールシートからはずしてください。
9. 折りたたんだビニールシートを縛る為の紐を、約80cmの間隔で本機の下の地面に置いてください。
10. スロットルを開き、巻取り速度を調整しながらビニールシートを巻取り、折りたたんでいきます。(折りたたみ幅は約1m位になります)
11. ビニールシートの巻取りが終わりましたら必ずエンジンを停止させ、9であらかじめ地面に置いてあった紐でシート両端を縛ってください。
12. 縛ったビニールシートは保管もしくは回収業者で処理してください。



作業のしかた （その他）

⚠ 警告 作業を安全に行う為に、ハウスのビニールシートや土おこしたビニールシートの巻取り作業では、必ず導入ロープを使用してください。決してビニールシートを直接巻取り部に手で入れないでください。

⚠ 注意 作業範囲内に人がいないことを確認の上、作業してください。引張られたビニールシートなどでけがをするおそれがあります。

1、その他の注意

- 長いビニールシートを巻き上げる際は、地面の状況によっては抵抗が大きくなり、巻き上げが困難な場合があります。このときはビニールシートを手で引張って補助をしてください。
- 雨天時は水滴などがビニールシートに付着し重たくなります。なるべく雨天時は避けるか、濡れたビニールが乾くまで待って巻上げ作業を行ってください。
- 気温が摂氏10～20度の状況下では本機の折りたたみ部でビニールシートは約1m程度の幅で折りたためますが、摂氏10度以下になると折りたたみ幅が大きくなり、摂氏20度以上では折りたたみ幅が小さくなる傾向にあります。
- ビニールシートの長さが100m近くになると本体下部に積層され折りたたみ部出口につかえるようになります。このような場合は随時ビニールシートを移動させ、折りたたみ部出口を解放状態にしてください。気温が摂氏10度以下の場合長さが短くても同様の傾向になります。

2、その他の注意 トラックなどでの移動

⚠ 注意 トラックなどへのハウスシート巻上機積み降ろしは、必ずエンジンを停止し、2名以上の作業員で行ってください。転倒などけがをするおそれがあります。

⚠ 注意 エンジン停止直後はマフラー付近が熱くなっていますので、エンジンが完全に冷えてからトラックなどへの積み降ろしをしてください。火傷などの傷害を負う可能性があります。

- エンジン始動などの点検は、トラックなどへ搭載する前に行ってください。
- トラックなどの移動は付属のロープでしっかり固定してください。

作業のしかた （その他）

3、巻上げ作業中ビニールシートが引っ掛かったり、巻き上げ部で詰った場合。

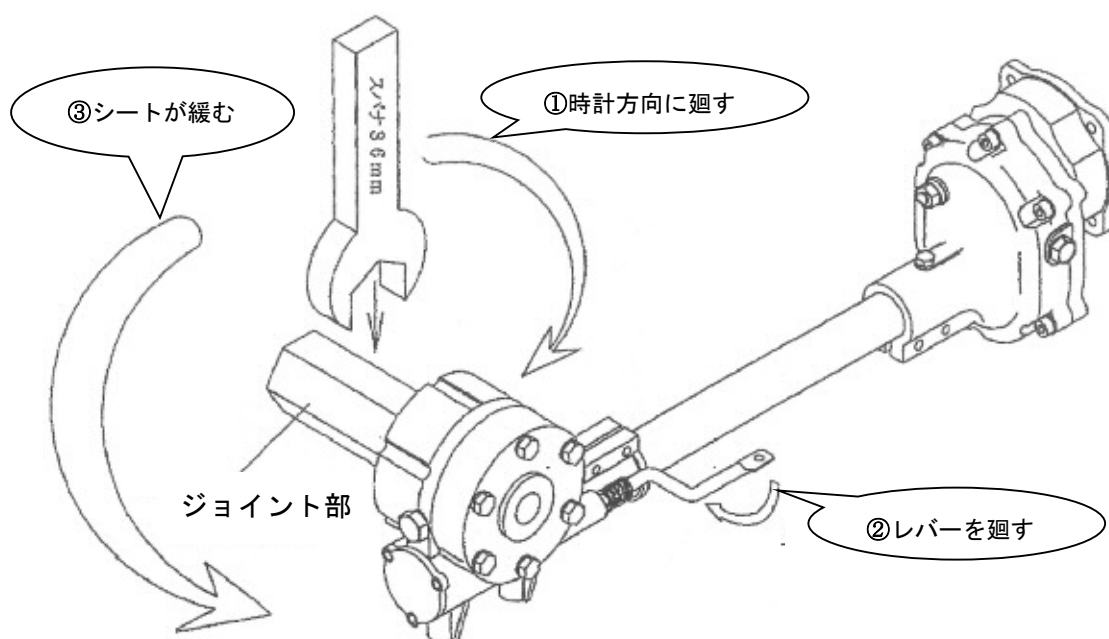
ビニールシートの巻上げ作業を行う場合ビニールシートが引っ掛かりそうな場所やビニールシートに異物が入るような場所での作業は極力避けてください。

ビニールシートが引っ掛かったり、ビニールシート内に異物が入り巻き上げ部内で詰った場合は以下の方法で除去してください。

1. エンジンを停止します。
2. ジョイント部にモンキースパナまたは36mmスパナをかけます。スパナを時計方向に力を加えて廻し減速部のレバーを矢印の方向に廻すと、駆動ホイール、駆動輪が自由に回転しビニールシートは詰まりや緊張から解放されます。そのとき減速機のクラッチは切ったままにしておきます。
- 3.引っ掛っている原因や、巻き上げ部・折りたたみ部の詰まりを除去してください。
- 4.引っ掛かり、詰まりが除去できましたら、再度今までの作業を行ってください。

⚠ 注意 ビニールシートが引っ掛かり駆動ホイールと駆動輪が停止した場合は、無理にエンジンのスロットルを上げてビニールシートを引き込もうとしないでください。エンジン部品や減速機等破損のおそれがあります。

⚠ 注意 上記の手順をせずクラッチを無理やり切ると、クラッチが破損するおそれがあります。



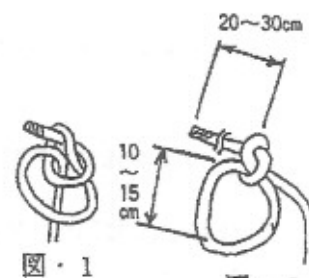
作業のしかた (その他)

4、付属の導入ロープの作り方

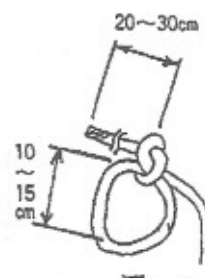
付属の導入ロープは部品注文可能ですが、劣化により使用不可の場合や、長さが足りない場合は以下の方法で作成可能です。

1. 太さ 10mm程度の綿ロープをご用意ください。
2. ロープの先端はテープ等で巻いて解けないようにします。
3. 図1に示すように結びます。ロープ先端から結び目までの長さは約20～30cm程度にします。
4. 図2でできる輪は10～15cmの長さにします。
5. 図2でできた輪の中に、ロープを輪状にして通してください。
6. 5の作業を繰り返し行ってください。
7. 完成後のロープの長さを決めておき準備するロープの長さを割り出します。目安としては完成後の長さの3倍程度となります。(例：10mの導入ロープを作るには約30mのロープが必要となります。)
8. 希望する長さまで輪を作ったら図6のように結んでください。
9. 結び目は緩まないようしっかりと締めてください。

以上で終了です。



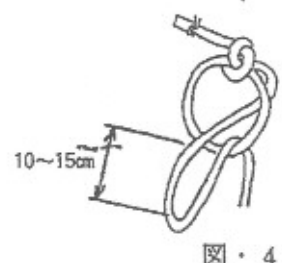
図・1



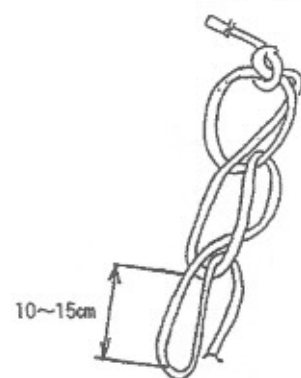
図・2



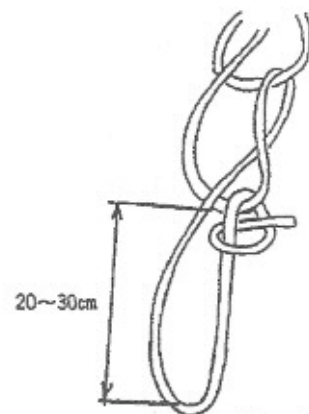
図・3



図・4



図・5



図・6

作業後の手入れ

1. 作業後の手入れ



警告

- 各部の掃除をするときは、必ずエンジンを停止させ回転部が完全に止まってから行ってください。守らないとケガをするおそれがあります。
- エンジン停止直後は、マフラー付近は暑いのでやけどをするおそれがあります。触れないでください。
- エンジンが熱いうちに本体へカバーをすると火災のおそれがあります。カバーをするときはエンジンが完全に冷えてから行ってください。

○各部の掃除のしかた

- ・付着した砂土は作業終了後できるだけ早めに掃除してください。
- ・水洗いは巻上げ部とフレーム部に限り、他には水をかけないようにし、水がかかったときは拭き取ってください。
- ・冷却風の吸い込み口で、シリンダ付近の草などの詰まりはオーバーヒート、火災の原因になります。外側と内側をこまめに掃除してください。

○長時間使用しない場合の手入れ

- ・格納場所は、できるだけ乾燥した風通しの良いところにしてください。
- ・ほこり防止のためカバーをし、転倒しないようにしてください。
- ・燃料は拭き取るか、使い切って空にしてください。

日常の点検と調整



警告

- 交換・点検・整備をするときは、必ずエンジンを確実に停止させ、回転部が完全に止まってから行ってください。

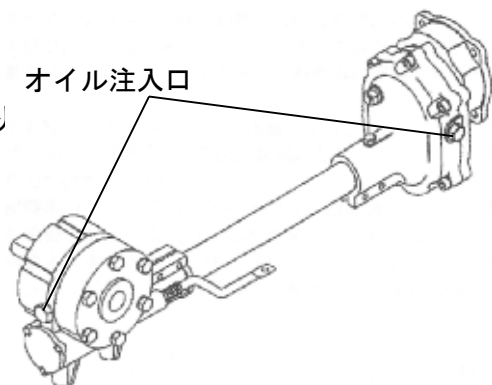
1. ウォームギヤオイルの点検・補充

ミッションオイル注油栓をはずし、注入口よりオイルが目視で確認できれば、規定量のオイルが入っています。

補給が必要な場合は下記相当のオイルを注油してください。

ウォームギヤオイル#460

オイル注入口



2. Vベルトの点検

目視にてひび割れなどが無いか確認してください。

交換時はテンションを緩めVベルトを交換してください。

3. 巻き上げ部駆動輪の空気圧

指定圧力は1.2 kgf/cm²です。使用前に圧力を点検してください。

日常の点検と調整

4. 日常のエンジンの点検と調整

定期点検一覧表

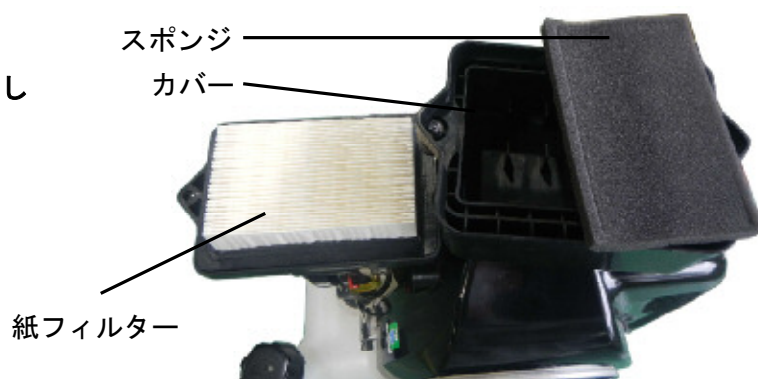
項目 \ 時間	毎運転前	50時間毎	100時間毎	2年
各部ボルト、ナットの点検締付け	○			
燃料漏れの点検	○			
エアクリーナの点検・清掃	○			
冷却風取入口、冷却フィン、マフラ周辺の清掃	○			
点火プラグ点検・清掃		○		
燃料フィルターの点検・清掃		○		
マフラ、シリンダのカーボン除去		○		
スパークアレスタの清掃		○		
点火プラグの交換			○	
燃料パイプ交換				○

毎運転前の点検・整備

エアクリーナの清掃

カバーを開き
紙フィルターをエアブローし
スポンジを白灯油で洗浄後、
エンジンオイルに浸し片手で
固く絞ってください。

⚠ 火気厳禁



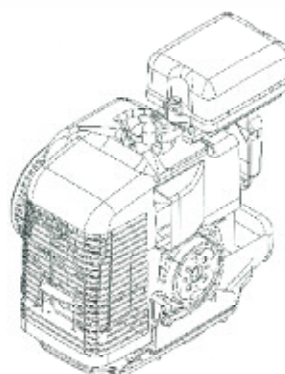
各部の清掃・点検

マフラー周辺の清掃

冷却フィン・冷却風吸込み口の清掃

各部ボルト・ナットの点検締付け

燃料漏れの点検



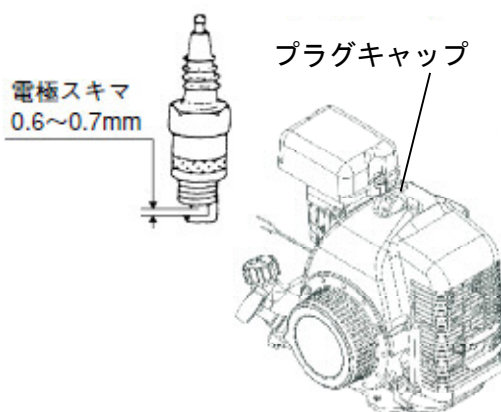
日常の点検と調整

50時間毎の点検・整備

点火プラグの清掃と調整

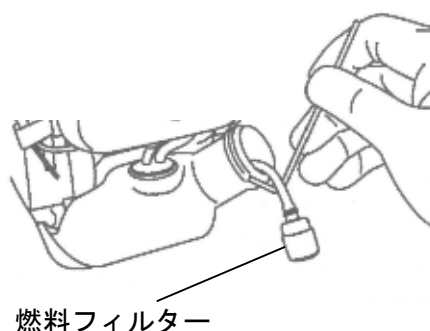
電極およびガイシ部に堆積しているカーボンを清掃後、電極スキマを0.6~0.7mm(官製ハガキ3枚の厚み)に調整します。

⚠ 組付時プラグキャップは確実に押し込んでください。



燃料フィルターの清掃

針金などで燃料注入口から引出してきれいな白灯油で洗浄します。汚れがひどいときは、フィルターを交換の上、タンク内も洗浄します。



⚠ 火気厳禁

カーボン落とし

マフラー出入口、シリンダ、ピストンのカーボンを除去します。この作業はエンジン整備の技術および道具を要します。お買い上げの販売店又は最寄りのサービスセンターへご相談ください。

⚠ 点検時注意事項

- ⚠ 不意な始動を防ぐため、点検・調整時は、点火プラグの配線ははずすこと。
- ⚠ 運転直後は、エンジンが熱くなっていますので触らないこと。
- ⚠ 燃料（ガソリン）を取扱うときは、火気厳禁。
- ⚠ 燃料がこぼれているときは、きれいに拭き取ってから使用すること。
- ⚠ エンジンを水洗いしないこと。
- ⚠ むやみにエンジンの設定回転速度を変えないこと。
(回転速度を変えるときはお買い求めの販売店にお問い合わせください)

故障と対策

現象	原因	対策
始動しない	・ 燃料切れ及び不良燃料 ・ 燃料フィルター目詰まり ・ 始動操作ミス ・ 点火プラグ不良 ・ コイル・イグナイター不良 ・ キャブレター不良	・ 燃料補給。交換 ・ 清掃 ・ エンジンの始動方法の項参照 ・ 交換 ・ 交換 ・ 交換
出力不足	・ スロットルワイヤー調節不良 ・ エアクリーナーエレメント目詰まり ・ 排気ポート、マフラーにカーボン堆積	・ 調節 ・ 清掃 ・ 清掃
排気音が大きくなる	・ マフラーのゆるみ	・ 増締
スロットルをしぼってもエンジンの回転が下がらない	・ クラッチスプリングの切損 ・ キャブレター調整不良	・ 交換 ・ スロットルワイヤー調整ネジとロックナットで調整する
エンジンの回転を上げてても動かない	・ 巻き上げ部に異物がはさまっていませんか ・ Vベルトの切れ、緩み、外れ ・ ウォームギヤの摩耗	・ 取り除く ・ 交換、テンションを張る、ベルトをかける ・ 交換（販売店にご相談してください）
作業中突然動かなくなる	・ 巻き上げ部に異物がはさまっていませんか	・ 取り除く（作業前、あらかじめ大きな石など取り除いて作業を開始してください）
作業中エンジン回転が下がり動かなくなる	・ 無理な抵抗をかけていませんか	・ 適切な抵抗で作業する為に手で引く補助をする。
折りたたみ部が動かない	・ Vベルトの切れ、緩み、外れ ・ テンショナー動作不良	・ 交換、テンションを張る、ベルトをかける、スプリング交換
折りたたみ部から異音が出る	・ 動作部分の油切れ	・ 潤滑油塗布

メ モ

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.

メ モ

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.

メ モ

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed lines.



本社営業部 岡 山 市 中 区 雄 町 3 9 4 - 3 (086) 279-6100
北海道(営) 旭川市工業団地 5 条 3 丁目 3 番 1 号 (0166) 36-5115
東 北(営) 仙台市宮城野区萩野町 4 丁目 2-44 (022) 232-5609
関 東(営) 群馬県伊勢崎市東区粕川町 1616 (0270) 21-8127
九 州(営) 熊本市東区健軍 3 丁目 45-13 (096) 368-7407
本 社 工 場 岡 山 市 中 区 雄 町 3 9 4 - 3 (086) 279-0313

お客様メモ

購入日	年	月	日
購入店名			

220620

-60C050F